

かしま

HOT 通信

6月号 Vol.353

令和4年(2022年)6月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室
 ■発行/社団法人 養生会
 〒971-8143
 福島県いわき市鹿島町下蔵持字中沢目22-1
 tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...
 上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。
 かしま病院広報企画室まで
 kouhou@kashima.jp

ホームページ <https://www.kashima.jp>

かしま病院

検索



スマートフォンをご利用の方は、
 QRコードを読み取り、アクセスしてください。
 PCサイトと同じ内容がご覧頂けます。



1 2 巻頭特集

医療技術部
 ME科のご紹介

3 看護の日

手洗いチェックイベントを開催しました

3 コラム ひんがら目(180)

「がんは、早期発見早期治療と言いますが...
 急ぎすぎると後悔する事も」

呼吸器科 部長 山根 喜男

4

ようこそ家庭医療へ!
 リハビリPOST
 世界禁煙デーと禁煙週間
 かしま荘通信

— 整形外科 —

診療体制変更のお知らせ

1 5月1日 から変更

変更前	第1、第3、第5土曜日
↓	
変更後	毎週土曜日

土曜日の診察日

2 6月1日 から変更

変更前	第2、第4木曜日
↓	
変更後	第1、第3、第5木曜日

木曜日の診察日

巻頭特集

医療技術部 ME科のご紹介

MEとは「Medical Engineer(メディカルエンジニア)」の略称で、「医療機器の技術者」という意味です。

昭和62年に「臨床工学技士法」にて制定された資格です。
 定義は「臨床工学技士とは、厚

「臨床工学技士」とは...

病院の中には医師や看護師の他に、診療放射線技師、臨床検査技師等、有資格者が働いています。臨床工学技士も病院で働く医療技術者です。臨床工学技士はメディカルスタッフの一職種であり、現在の医療に不可欠な医療機器のスペシャリストです。

「臨床工学技士」を知っていますか?



ME室

2に続く

生労働大臣の免許を受けて、臨床工学技士の名称を用いて、医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作(生命維持管理装置の先端部の身体への接続又は身体からの除去であって政令で定めるものを含む)及び保守点検を行うことを業とする者」とあり、その臨床工学技士が所属するのがME科です。



M E科は現代医療には欠かせない医療機器(ME機器)の保守・点検・操作等を行い、病院診療をサポートする、いわば緑の下のちからもちな部署です。
 今月号ではME科のスタッフである臨床工学技士とME科について紹介します。



ME科について…

当院に所属する臨床工学技士は8名です。

業務は、ME室（機器管理・呼吸治療・在宅機器・手術室、内視鏡室、透析センターに分かれており、業務内容に合わせた人数で分担して行っています。

また、ME科スタッフは業務に関連する認定資格を取得しており、日々、知識・技術の向上に取り組んでいます。



保守・点検中

ME科の業務…

ME室業務

● 機器管理

院内で使用される医療機器を安全に使用できるように、また機器の性

能が維持できるように保守・点検を行います。更に医療機器を一括管理し、効率的で適切な運用ができるようにしています。ME室で管理している機器は、人工呼吸器、生体情報モタ、輸液ポンプ、シリンジポンプ、低圧持続吸引器、離床センサー、フットポンプ等です。他にも院内にあるAEDやペースメーカーなども管理しています。

● 呼吸治療

スタッフ数	8名（男性4名、女性4名）
国家資格	臨床工学技士
認定資格	透析技術認定士（7名） 呼吸療法認定士（3名） 消化器内視鏡技師（1名）

医療技術部 ME科

肺の機能が働かなくなり、呼吸が十分にできなくなった患者さんには呼吸を代行するための人工呼吸器という装置が装着されます。

担当スタッフは人工呼吸器を装着している患者さんのところへ行き、安全に装置が使用されているか、装置に異常がないか、点検を行います。

● 在宅機器

自宅や施設で医療機器が必要な治療をする場合、その手配を行います。特に多いのが在宅酸素療法です。在宅酸素療法は、酸素が必要な患者さんに酸素濃縮装置や酸素ボンベを、人工呼吸器より離脱できない患者さんには在宅人工呼吸器を、メーカーと協力し設置、機器点検、緊急時の対応をしています。

● 手術室業務

手術室には医療機器が数多く存在します。手術内容により使用される機器は多種多様で、状況に応じて機器の準備を行います。手術が円滑に行われるように、手術室内の医療機



透析センター

器の使用前点検、関連物品の管理を行います。

内視鏡業務

内視鏡室では胃や腸などの検査を行う際に内視鏡装置を使用します。内視鏡室には1名を配置し内視鏡装置が安全に使用できるように、また機器の性能が維持できるように保守・点検を行います。

透析センター業務

透析センターでは、慢性期・急性期腎不全患者さんの血液透析を行います。スタッフは3名を配置し、穿刺や人工透析装置の操作、透析装置及び周辺装置の保守点検を行います。最近ではエコーを用い、患者さんの血管形状や血液流量を確認し、透析治療を円滑に行う補助も行っていきます。また血液透析だけではなく、医師の指示により血漿

ME科の目標

どの業務においても、医師・看護師と協力し、安全で安心な医療の提供を心がけていきます。

臨床工学技士の主なる使命は「医療機器の安全性・有効性の確保」であり、そのためには適正な使用方法が重要です。ME科では院内でのME機器の取り扱い説明や、勉強会の開催、ME機器の不具合の対応や、新しい情報の発信なども行います。

今後益々増大する医療機器の安全確保と有効性維持の担い手としてチーム医療に貢献し、より良い医療を提供する為に「医療機器の質と安全の確保」を目標に、スタッフ一丸となって業務を遂行していきます。

交換療法や吸着療法など、様々な血液浄化療法も行います。



看護の日

手洗いチェックイベントを開催しました。



5月13日(金)、かしま病院の外来棟にて、看護の日にちなみ手洗いチェックイベントを開催しました。

手洗いチェックは、専用のローションを手に塗り、汚れに見立てて、いつも通りのやり方で手を洗ってもらいます。手洗い後、専用のライトで手を照らすと洗い残しがある部分が光り、適切な手洗いができているかどうかを確認することが

できます。

イベントに参加して下さった皆さんの中には、しっかり汚れが落ちている方もいれば、洗い残しが多い方もおり、結果に一喜一憂されていました。特に、爪の先や手の甲は洗い漏れが多い部分でした。

感染対策で手洗いを十分に行っている方も多いと思いますが、意識して丁寧に洗うことの重要性について改めて確認する機会になっていただけなら幸いです。



毎年5月12日は看護の日



近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、5月12日が看護の日とされています。日本では1990年に厚生省(現 厚労省)により、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、私たち一人一人が分かち合うことが必要であることを、老若男女を問わず誰もが育むきっかけとなるように、看護の日が制定されました。看護の日を含む日曜日から土曜日の一週間は看護週間とされており、各地で健康に関するイベントが開催されています。

がんは、早期発見早期治療と 言いますが・・・ 急ぎすぎると後悔する事も

肺がん治療の原則は早期発見、早期治療です。そのために国の主導の下に、市町村で肺がん検診が行われています。

Kさんは、14年前の肺がん検診で右肺にスリガラス様の異常陰影が見つかりました。当時、61歳の女性でしたが、26歳頃から35年間紙巻タバコを1日平均15本吸っていらっしゃいました。肺の陰影の長径は4cmありましたが薄い細長の塊でしたので、2ヶ月ほど経過を見ました。しかし、陰影が改善しませんでした。その結果、肺癌の診断となりました。胸腔鏡による内視鏡手術で右肺上葉切除を受けました。I期の肺がんでしたので抗がん剤などは使用しませんでした。

手術後は、再発してないか定期的に胸部CT検査をします。経過中に手術側とは反対側の左肺上葉にスリガラス陰影が徐々に大きくなってきました。始めは1cm程度でしたがやがて5mm程度の大きさになってきました。再発というのは考えにくく、もし癌だとしても重複癌といって、2個目の癌が出来たのだらうと思われれます。数年間の経過で徐々に増大し5mmになったくらいですから、急いで手術する必要はありません。陰影が小さいので気管支鏡検査などでは確認は得られそうもありません。そのため、また数年間経過観察してきました。途中で胃癌が見つかり他院で胃切除術を受けられました。



最初の手術から10年以上経過しましたので本来なら通院終了ですが、左側の小さな陰影のために今後とも毎年CT検査が勧められます。

陰影は徐々に大きくなっていましたのでがんの可能性は高くなって来ましたが、まだ待てない事はありません。今まで何年間も患者さんと御家族の方と相談し、そのたびに決断がつかず延び延びになっていきましたが、昨年暮れに、手術をして白黒つけてすっきりしたい旨の申し出がありました。

懇意にしている外科の先生にお願いし手術を受けました。結果は、微小な肺がんでした。幸い肺の縮小手術で済みましたので肺機能には大きなダメージはありませんでした。早期の段階で手術を受けましたので治療したものと判断できます。

積年の悩みが解決したのですから万々歳です。今後の経過観察は手術をして下さった病院にお任せしますので当科への受診の必要はなくなつた筈ですが、ある日、ご主人と一緒に相談に見えました。

Kさんが受けたのは肺の部分切除ですから体はお元気です。車も運転されています。運転免許更新に際し認知症の検査を受けたところ引っ掛かり、「認知症が無い」旨の医師の証明書の提出を求められ、当科に見えたことが解りました。

同行されたご主人の話では、短期間とはいえ、肺の手術の入院を契機に認知機能が低下したように見えたそうです。当科で長谷川式の認知症の検査をしますと得点が不足しているようでした。免許更新は無理かも知れませんが、早期だった肺がんは手術しなくても数年以上は無症状でしょうし、2cmぐらいになるまで待つてから手術しても根治が可能だったかも知れません。高齢者の癌の場合、残された人生と癌の進行度とを天秤にかけた判断をしないと、後悔する事があるかも知れません。

(呼吸器科部長 山根喜男)



ようこそ 家庭医療へ!

第148回 研修医の数=指導医の筋力トレーニングの重量?



診療部 石井 敦

～ いわきに生きる家庭医療への挑戦 ～



今年度、かしま病院史上最多の4名の総合診療専門研修の専攻医（家庭医療を学び習得するために指導医のもとで診療・教育・研究をおこなう後期研修医）を受け入

れています。総合診療医育成のニーズが高まり、総合診療専門研修の指導医不足が全国的に問題となっている中、実は当院は総合診療専門研修の指導医が3名常勤しています。日本専門医機構のプログラム整備基準では、総合診療専門研修において、同時期に受け入れることができる専攻医の数は、指導医1名に対して3名までとされており、当院では最大9名までの専攻医を受け入れることが出来る計算になります。今年度4名に増えただけでも十分に賑やかになったと感じていますので、いきなり同時に9名というのは想像がつかない世界ですが、熱意ある多くの若い医療人たちが当院で切磋琢磨する文化を定着させることが実現したら、もはやワクワクが止まりません。

一方で、学習者（専攻医）が増えれば増えるほど、指導医もまたこれまでに経験がなかったような豊富な学びの機会を得ることが出来るようになります。例えば、患者さん一人ひとりが、たとえ同じ疾患を患っていても、それにまつわる体験は患者さんがおかれている状況や社会背景によって左右され、誰一人として同じものはないのと同じように、医療を提供する側の専攻医も、一人ひとり、たとえ同じ疾患の患者さんを主治医として担当したとしても、それにまつわる体験は、専攻医がおかれている状況や社会背景によって異なるので、指導医が画一的な方法で指導しているのは、個々の専攻医の能力を最大限に引き出すことは難しくなるでしょう。

というわけで、新年度に入ってから、予想通り予想外の出来事に連日のように恵まれて、その経験を通し、専攻医たちが多くの学びを得ているのに負けないくらい、指導医陣たちも日々自身の器を大きくするための筋トレに励んでいる、そんなWin-Winで賑やかな活気あふれる状況となっております。

かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。



第135回

肩こりと肩こり体操

肩こりとは、首の後ろから肩の付け根の辺りにかけての慢性的な張り感、重苦しさ、痛みなどのことを言います。肩こりは、他の病気と関連のない原発性の肩こりと他の病気の症状の1つとしてみられる症候性の肩こりの2つに分

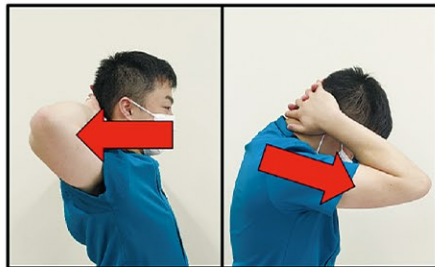
けられます。原発性は、過労や体型、姿勢の悪さ、精神的な緊張などが原因です。症候性の原因となる病気は、整形外科以外にも、循環器や消化器、呼吸器、眼科など幅広い分野で見られます。

肩こりの治療や予防には何をすればよいのでしょうか。症候性の肩こりの場合は原因となる病気の治療が優先になります。肩こり以外に何か変わった症状がある場合は早めに医療機関や医師への相談が大切です。また、肩こりは日常生活のストレスと関係があります。ストレスを減らすために、日常的に首や肩周りの運動を行うことや、姿

勢を良くすることなどが大切です。

次に原発性の肩こりの対応法として、首や肩の運動をご紹介します。運動を行う際は、(1)リラックスして、無理な力を加える運動は避ける、(2)良い姿勢で行う。この2つを守って行いましょう。また、首や肩などに痛みがある場合などは、無理をしないようにしましょう。

1つ目はゆっくりと両肩を耳に近づけるように肩をすくめる運動です。ゆっくりと5回行います。2つ目は手を頭の後ろで組み、胸を開く運動（写真：左側）と背中と首を丸める運動（写真：右側）です。写真のような姿勢を5秒間行い、交互に5回ずつ行いましょう。いずれの場合でも無理をしないで続けるようにしましょう。



理学療法士 木村 諒佑

かしま荘通信

かしま桜祭り

4月21日（木）



入居者様にサプライズで「かしま桜祭り」を開催致しました。新型コロナの影響により、外出が出来ない状況が続いている為、職員手作りの桜を見ながら団子やいなり寿司などを召し上がっていただきました。

入居者様からも笑顔が見られておりました。職員と入居者共々有意義な時間を過ごすことができました。

世界禁煙デー 5月31日と、禁煙週間 5月31日～6月6日

毎年5月31日は世界禁煙デー、5月31日からの1週間は禁煙週間です。今年の禁煙週間のテーマは「たばこの健康影響を知ろう!～若者への影響について～」です。喫煙を開始する年齢が若いほど、肺がん等の病気になるリスクや総死亡率が高くなることの普及啓発が目的です。

禁煙外来

当院では毎週火曜日に、禁煙をサポートする禁煙外来を実施しています。予約制になりますので、受診を希望される方は下記連絡先までお問い合わせください。

外来予約センター

TEL：0246-76-0302

予約受付時間：13:30～16:30（土日・祝祭日除く）